



真心の行動  
慈愛の奉仕  
平和に挺身

青い空 緑の山と風  
黄色のうねりは  
人類の理想 文化を表わす。  
それらが混然一体調和して  
ロータリーの理想に向って  
昂って行く姿を示している。



# Weekly Report

地区の標語 **原点に帰りロータリーの心を学ぼう**  
クラブの標語 **親睦と奉仕でクラブの和を深めよう**



## 第270回例会報告 (5/22) (1995年～1996年度第43回例会)

- 司会 SAA委員会委員 藤本 吉文
- ◎点鐘 会長 萩生田茂夫
- ◎ロータリーソング ソングリーダー 吉沢 洋景
- 「奉仕の理想」
- ◎お客様紹介 会長 萩生田茂夫
- 竹村 寛様 (東京稲城RC)
- 上田 隆信様 (東京稲城RC)

◎会務報告 会長 萩生田茂夫

5月19日(日)、国分寺ロータリークラブ創立30周年記念式典に会長、幹事、宮本カウンセラー、メッテ・アルス・オールセンの4人で参加してまいりました。

◎幹事報告 幹事 橋口 洋三

1) このところ、例会場が変わりますが、次回5月29日(水)の夜間例会は多摩そごう例会場です。お間違えないようにご出席下さい。

2) スポンサークラブの多摩RCから5/28(火)の夜間例会に参加のご案内が来ています。

若生脳神経外科医の「脳について」の卓話を予定しているそうです。関心のある方、興味のある方は是非参加して下さいとの事です。参加される方は事務局の

西川さんまで申し出下さい。

- 3) 大阪北RCの菅生氏から本が一冊贈られて来ました。菅生氏は1991～92年度の大阪、第2660地区ガバナーを務めた方で、ガバナーの仕事を通じての反省を加え、ロータリー随想、雑文類を取りまとめた本です。興味のある方は事務局に置いてありますのでお読み下さい。
- 4) “1995手続き要覧”を再度申込を回覧しますので、前回申し込んでいない方は、名簿に印をつけて下さい。

### ◎次年度報告 会長エレクト 遠藤 二郎

5/15(水)次年度地区協議会があり、出席しました。

於：京王プラザホテル新宿

- 出席者 遠藤 二郎会長
- 須藤 起雄幹事
- 中山 恒武クラブ奉仕委員長
- 赤尾 恭雄職業奉仕委員長
- 高村 弘社会奉仕委員長
- 平野 行廣米山奨学事業委員長
- 鶴海英三郎国際奉仕委員長
- 戸田 昭寿ロータリー財団委員長
- 遠藤 立一副幹事(青少年奉仕委員長代理)

### 議題 ①クラブ運営上の問題点

- ②運営計画
- ③会員増強について
- ④奉仕活動計画について

## 東京多摩グリーンロータリー・クラブ

会長：萩生田茂夫 副委員長：古尾警太郎 山崎 光一  
 幹事：橋口 洋三 委員 平野行廣・飯島裕美・根本泰守  
 会報委員長：小城 章員 関岡俊二・城倉正博・戸田昭寿  
 例会場 多摩そごう7F パンケトルーム

事務局：東京多摩市落合1-9-1  
 多摩センタービル7階  
 TEL 0423-72-6463/FAX 0423-72-6491  
 例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30

## 委員会報告

### ◎ニコニコBOX 親睦活動委員会委員 坂田 育男

竹村 寛様：お世話になります。

上田隆信様：お世話になります。

萩生田茂夫：東京稲城RCの竹村様、上田様ようこそ。

橋口 洋三：長谷川京プラ常務、卓話楽しみにしています。

赤尾 恭雄：稲城ロータリークラブ竹村会長、上田様、ようこそお越し下さいました。

須藤 起雄：キュウリの芽がようやく出ました。

伊藤 英也：お客様ようこそ。

中山 恒武：藤本さん、先日はご苦労様でした。

田畑 博：今日はニコニコが少ないので協力します。

遠藤 二郎：久しぶりに雨が降ったので。

森田 舞子：あいにくの雨ですね！長谷川様のイニシエーションスピーチ楽しみにしております。

小城 章員：長谷川様、原稿ありがとうございました。

大熊 将夫：長谷川様、イニシエーションスピーチ楽しみにしております。

関岡 俊二：久しぶりの例会出席で、会場を間違えました。

本日合計 金26,000円 本年度累計 金1,177,414円

### ◎出席報告 出席委員会副委員長 小坂 一郎

会員総数	55名(1名出席免除者)
出席者数	44名
本日出席率	81.48%
5/8出席率	81.48%

#### ■メイクアップ 3名

田中 實 (5/14 多摩)

関岡 俊二 (5/21 中野・5/15 芝)

北村 幸彦 (5/14 多摩)

#### ■欠席届出者 9名

伊東 巖 風間 茂穂 北村 幸彦

中山順一郎 奥木 博勝 新海源四郎

城倉 正博 高村 弘 内田 茂男

#### ■欠席者 1名

戸田 昭寿

### (寄稿)

#### 「親善大使のつもりで行ってきます」

小野 直美様

昨年ロータリーの派遣候補生となってから1年が経ちます。たくさん新しいことに出会い、その度に感動を重ねてきた1年だったように思います。今まで小学校、中学校、高校、大学へと学んでいくことが当然で、私達学生のすべきことだと思っていた私にとっては、色々な意味での視野が広がり、新しい勉強の場を見つけられたように思います。今まで知らなかった多くのことに会うことができました。

まずは友達が増えたこと。今まで育ってきた環境の違う、学校も様々な派遣学生、国境を越えての来日学生達と、友達になれたことは嬉しいことです。昨年の8月サマーキャンプで、日本語の分からない来日学生と、片言の英語で一生懸命理解し合ったことは忘れられません。友達の和がいろんな方向に広がりました。

いつもお世話になっているロータリアン・ローテックスの方々に、出会えたことには心から感謝しています。お忙しいお仕事、あるいは学校生活をお持ちの方ばかりなのに、私達のために時間を割いて、様々な手助けを下さっています。キャンプやオリエンテーションを通して、大切な心構えを教えて頂いた他、あらゆることで私達を支えて下さっています。ローテックスの方々は私達の先輩ということもあり、気が付いたことを何から何まで指導して下さい、とても心強いです。今は、学校帰りや休日の暇な時間を見つけて英会話をローテックスの方に教わっています。

最後にロータリーという素晴らしい機関に出会えたことに感謝したいです。これは何に感謝すべきなのでしょう。面接をして下さったロータリアン・ローテックスでしょうか？ 願書作成をして下さった学校の先生でしょうか？ 今は皆に感謝がしたいという気持ちでいっぱいです。

良い親善大使になるために精一杯頑張ります。今までの1年間で感動したことや感謝の気持ちを忘れずにそして1人の日本人としての自分を見失わずに、アメリカの文化をたくさん学んで、少しでも多くの親善大使としての役割を果たしてきたいと思います。今までより何倍もの新しいことに出会い、その度に何かを感じられる1年であることと思います。

「今日で、クラブ会報委員2年間の最後の記録の担当を終わりました。ホッとしたというのが正直な気持ちです。

それにしても前年度森田舞子委員長、今年度小城章員委員長のご苦労は並大抵のものではありません。頭が下がります。両委員長さんに深く感謝申し上げます。」

(今週の担当：関岡 俊二)

## 【卓 話】

### 火の用心

東京消防庁 多摩消防署長 大須 史朗 様



国際ロータリーのテーマ

4月3日の例会の際、多摩消防署の梯子隊に対しまして人命救助功勞の表彰をしていただき誠にありがとうございました。日頃、黙々と訓練に訓練を積み重ね今回の人命救助ができたわけですが、今回の栄えある受賞について全職員の前で伝達をいたしました。

消防職員の士気も更に上がり大変ありがとうございました。

#### ● 火の用心は昔から

今日では火の用心は、火災予防という言葉で私達の生活の中に定着しておりますが、この「火の用心」という言葉がいつごろから使われはじめたか、はっきりとは分かりません。

1948年（慶安元年）に町触れの中に「町中の者は交代で夜番すべし。月行事はときどき夜番を見回るべし。店子たちは各々火の用心を厳重にすべし」とありますので公にはこの頃さかんに使われていたのかも知れません。

しかし、徳川家康の家臣であった本田作左衛門重次が、戦場から妻に送った「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな馬肥やせ」という簡潔にして要を得た手紙の中で「火の用心」という言葉がすでに使われておりました。この手紙文は今日でも手紙文の手本としてよく紹介されています。

この手紙は1575年頃に書かれたということですから、一般に使われだしたときより大分前のことで、彼が火の用心の第一号使用者ということになるかも知れません。

話が横に行きますが本田作左衛門重次の「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」とはどういうことか解説しますと、この時代は、今日のように消防組織や消防ポンプ車などが整備されている時代ではないわけで必要以上

と思われるほど、火の取扱いについて注意を払っていることが分かります。

お仙とは、重次の長男で仙千代のことで、重次が40歳を過ぎてから生まれた大事な跡取りのため、大変気にかけていました。

また馬は、戦には欠かせないもので、時には人の命より大事にしていました。

本田作左衛門重次について、どんな人が触れておきますと、1529年三河の国に生まれ、三河の国の奉行となった時、余りにも厳格な奉行であったために「鬼作佐」の異称が付けられました。

数々の戦に出陣して手柄を立てましたが、後に豊臣秀吉の忌諱に触れ、上総の国（千葉県総半島中部）に蟄居を命ぜられた後、1596年下総の国（千葉県北部から茨城県南部）の井野でその生涯を閉じました。68歳でした。

本田作左衛門重次の菩提寺は、取手市青柳1丁目の「本願寺」で寺宝として、重次の肖像画・家紋・旗印・兜・馬具・徳川家康から拝領した金団扇などが保存されています。

又、お仙は後に丸岡城（福井県丸岡町にあり、天守閣が国の重要文化財に指定されている）の城主になりました。

#### ● 防火標語

火の用心という言葉は、「火之要鎖」や「火乃用心」などと言葉もじりをしながらも、今日に至っています。「火の用心」は防火標語のさえたるものだと思いますが、防火標語は、それぞれの時代の社会的背景を反映して生まれてきています。

明治時代の消防車として馬引き蒸気ポンプが登場すると「ポンプ百より用心一つ」という標語ができ、関東大震災を経験した後には「不意の地震にふだんの備え」、「火事だ 地震だ 先ず消せ火種」という標語が登場しました。

昭和時代に入って戦時中は「火事は身の損、国の損」、「火の用心 だれにも出来る御奉公」というものが、戦後の物資欠乏時代になると「火の手に渡すな衣食住」という当時の社会情勢そのままの標語が生まれました。

放火の増加に伴い「広げよう放火防止に都民の輪」そして現在では、火の用心は、家庭、地域の住民の皆さん、又職場が一緒になってということから「広げよう地域ぐるみの火の用心」、「家庭から 地域に広げる 自主防火」というように火の用心は都民と共に、都民が全員で力を合わせてとう力強い標語が出てきています。

これらの標語はそれぞれの消防機関が獨創性を凝らして

つくっていますが、そのほかに全国的に統一した標語が必要だという声が高まってきたため、昭和41年から統一標語を作るようになりました。

東京消防庁もこのほかに独自で東京に合った標語と言いますか、都民の防火防災意識の普及啓発を図ることを目的に、毎年翌年度のポスター等に使う標語を18,000人の全職員から募集いたします。

今年度の最優秀は「みんなで築く 住まいの安全 地域の防火」と決まりました。

又、多摩消防署の女性消防官で消防士長笹川妙子の作った標語が、優秀作品として選ばれました。それは「小さな手 つないで 大きな防火の輪」です。多摩消防署の階段の蹴上げ部分に掲出してありますので、皆様消防署にお越しの節はそんな観点からは是非見ていただければ有難いと思います。

#### ● 放火されないために

皆さん、火災原因のトップは、なんであるかご存じですか。そうです。「放火・放火の疑い」がトップを占め、なんと昭和52年から19年間連続して出火原因の第1位となっています。昨年の当庁の火災総件数（6,589件）に占める放火による火災（2,315件）は、35.1%となっております。

一般に火災は、季節的な影響を受けるとされ、統計的にもその事をハッキリしており、私どもも12月から翌3月までを「火災期」と称して、特別な態勢をしているところですが、この放火火災は、年間を通じて各月の発生件数がほぼ平均しているところが特徴であります。また、連続放火火災については、「地域性」「時間性」の共通事項のあることも特徴といえるところであります。さて、多摩消防署管内の放火火災を見てみますと、この数年常に20件台の後半で、出火原因のトップを常に占めています。最近の管内の放火火災は、地域的に見てみますと、聖が丘地区が昨年の8月から9月にかけてダストボックス等への放火火災4件、永山5丁目周辺で昨年11月に車両に放火された火災が4件、今年に入り、東寺方地区、つい最近では、連光寺地区でも連続放火と考えられる火災も発生しているところですよ。

当庁においては、「放火火災を無くすことが火災を減少させることになる。」との認識の基に、昭和61年度から日本火災学会に対して「放火火災の予防対策について」に関し、調査研究を委託した結果を踏まえ、放火火災予防対策を推進しており、更に、平成4年3月には、放火火災を住宅防火対策の一環として据え、火災予防条例を改正し、強

力に放火火災予防対策を進めているところであります。

しかしながら放火火災予防対策は、ひとり消防機関だけで出来るものではありません。①地域住民との連携・協力 ②広報活動の徹底 ③関係行政機関との連携強化などが欠かせない事柄となっております。

つきましては、皆様におかれましても、地域的な協力体制等を築き、是非放火されない環境作りをお願いします。

#### ● 防災の危機管理

次に危機管理についてお話したいと思います。危機管理は、クライシス・マネジメントを日本語訳したものだそうで、そもそもアメリカの元国務長官マクナ马拉氏が提唱したと言われております。日本では、昨年1月17日の阪神・淡路大震災により、危機管理体制の脆弱性が各方面から指摘されたことは、皆様もご案内のとおりであります。

○月○日未明発生した、耐火造③1の工場の火災によって、2階の作業場約40m<sup>2</sup>が焼損し、この工場の生産ラインがすべて停止してしまった。という災害が発生しました。火災原因の調査は、早朝より開始され午後4時過ぎに終了しましたが、この時点で、既に、清掃業者及び機器のメンテナンス業者並びに空調業者等々30名が待機しており、直ぐさま復旧の作業が開始された結果、翌朝には通常生産体制が確保されていた。という事例です。

確かにこの企業の対応能力は、社長以下素晴らしいものがあります。私も感嘆したところです。しかしながら、危機管理には二つの側面があるのではないかと考えます。ひとつは、今回の事例のような「何か発生したときの対応」ともう一つは、「何も発生させない対応」であります。

後者の、事故等が何も起きない、何も発生させないことが、危機管理の本質ではないかと思えます。

このことは、意識するしないに関わらず、皆様も必ず、この「何も発生させない対応」に取り組んでおります。例えば、朝のミーティングでの他社の事故事例から社員に対する「注意心の喚起」などは、その一例だと思えます。また、私ども消防が皆様に指導しています「防火管理の実効性の確保」や「消防設備の適正な維持管理」なども、この「何も発生させない対応」であるものと考えております。

したがって、「予防こそ危機管理」であるとの認識に立ち、これからの企業経営に当たっていただければ幸いに存じます。

第269回（5/15）例会において

（卓話担当：山崎 光一）